

児童の実態

本学級の児童は、学習活動に対して、「やりたい・話したい」という意欲が見られる児童が多く、1学期の学級活動では、大勢の児童が司会に立候補したり、普段、発表が苦手な児童もしっかりと自分の意見を伝えたりすることができていた。しかし、自分の意見や考えを強く主張しようとするあまり、相手の意見を受け止めることに弱さがある。班活動でも相手の思いや考えより、自分の意見を通そうとすることが度々みられる。そのため、相手の意見を聞くことや反応することを意識した指導を行っているところである。

4月に行った標準学力調査の結果では、「話し手が知らせたいことを落とさないように聞いている」児童は86.2%と全国平均を5.8%下回る結果になっていた。このことから、話を聞くことに課題があると言える。

単元デザイン

本単元における重点指導事項は、学習指導要領における〔思考力・判断力・表現力等〕の「A 話すこと・聞くこと」(1)オ「目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。」である。児童はこれまで1対1の対話やグループでの簡単な話し合い活動を経験してきた。本単元では、グループの中に司会を立て、その進行にそって協働的に話し合うことをねらいとしている。これまでの児童の話し合いは、自分の意見の出し合いに終始してしまい、友達の見解を受け止めたり、グループとしての考えをまとめることが難しい場面が多く見られた。そこで本単元では、班の合い言葉を決める話し合いを言語活動として設定した。これまでの班活動から見えた課題を踏まえて、「こんな班にしたい」という思いや願いが込められた合い言葉を決める。班で1つの合い言葉を決める話し合いを通して、相手の思いや考えを受け止めながら自分の意見を伝えることができるようにしたい。

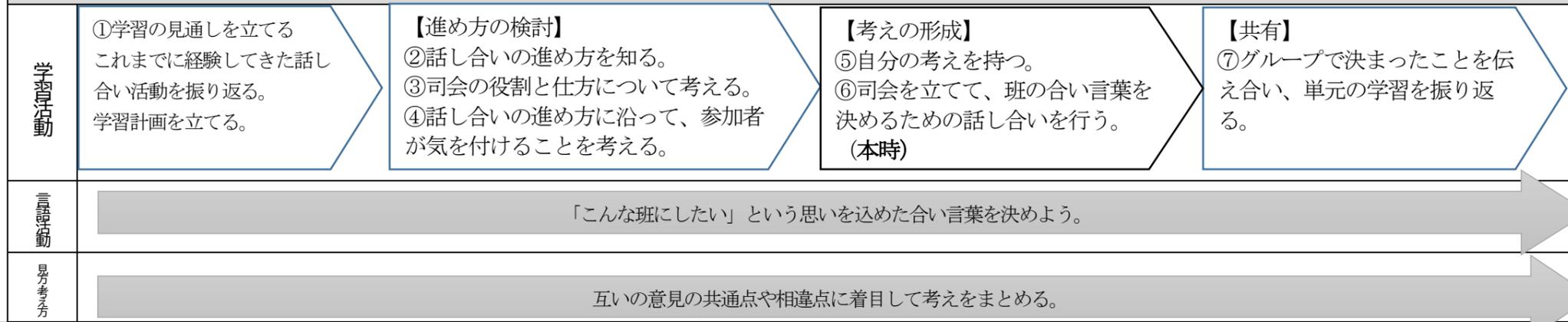
第1次では、これまでの話し合い活動を想起させ、見通しと問題意識を持たせる。特に班での話し合い活動を振り返り、課題を出し合うことで話し合い活動に目的意識を持たせる。また、自分たちが運動会の合い言葉についてグループで話し合った時のビデオと第4学年の話し合い活動のビデオを見せ、比べることで「もっと上手に話し合いたい」という意欲の高まりが期待できる。第2次では、話し合いを始める前に、教科書の話し合いの例を用いて、司会の役割や話し合い活動の進め方の工夫を児童の気付きを基に確かめられるようにする。それぞれの立場の工夫を見つけ出し、共通点や相違点などをまとめる活動を行う。その際、見つけたポイントは「3-2話し合いのポイント」としてまとめ、グループで話し合う活動を見合う際の視点とし、振り返りに活用できるようにしたい。また、話し合いでは、相手の目を見ながら自分の考えを伝えたり、相手が理解してくれているかどうかを確かめながら話したりする必要があるということにも気づかせたい。話し合い活動は生活班で行う。第2次全体を通して、話し合い活動の中で相手の話をしっかり聞き、互いの意見や考えを受け入れるという受容的な態度を養うことを意識し、聞く力を身に付けられるようにしていきたい。第3次では、学習のまとめとして、「3-2話し合いのポイント」を活用しながら、第1時であげたこれまでの課題と今回行った話し合い活動を比較してその成長を確認する。成長を認め合うことで学習したことの意義をつかませたい。

研究主題に迫る手立て

安心できる学級・学校づくり～生徒指導の三機能を意識して～

- 【自己決定】話し合いの議題について、自分の意見を持つことができるようにする。
- 【自己存在感】自分の役割を果たしながら根拠をもって自分の考えを伝えられるようにする。
- 【共感的人間関係】互いの意見の共通点や相違点に着目しながら話を聞き、相手の話を受け入れることができるようにする。

グループの合い言葉を決めよう〈全7時間〉



評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方を理解している。【(2)イ】	・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。 【(1)ア】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。【(1)オ】	・これまでに学習したことや話し合いの経験を生かして学習課題を明確にし、学習の見通しをもち、目的を意識して、司会の進行に沿ってグループで進んで話し合おうとしている。

単元の主な資質・能力

1・2年
互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。

3・4年
目的や進め方などを確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。

単元の目標

【知識・技能】
・比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方を理解することができる。(2)イ

【思考・判断・表現】
・目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。A
(1)ア
・目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。A
(1)オ

【学びに向かう力、人間性等】
・言葉が持つ良さに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして思いや考えを伝え合おうとすることができる。

本単元終了時の目指す児童像

司会や参加者の役割を果たしながら話し合う中で、互いの意見を受け入れ、考えをまとめることができる。

5・6年
互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。

中1年
話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。

